

## 〈会 告〉

### 〈認定医更新における単位取得が認定された学会・研究会の活動状況〉

#### (1) 日本精神神経学会

学会名：日本精神神経学会  
 事務局住所：〒113-0033  
                   文京区本郷2-38-4  
                   本郷弓町ビル5F  
 TEL : 03-2814-2991 FAX : 03-2914-2992  
 e-mail : info@jspn.or.jp  
 URL : <https://www.jspn.or.jp/>  
 代表者：＜理事長＞武田雅俊  
 事務局長：山根信行  
 会員数：17,228名（2017年3月）  
**【平成28年度活動状況】**  
 第112回日本精神神経学会学術総会  
 期 間：平成28年6月2日（木）～4日（土）  
 テーマ：まっすぐ・ところに届く・精神医学  
 場 所：幕張メッセ、アパホテル&リゾート東京  
           ベイ幕張

#### (2) 日本思春期青年期精神医学会

学会名：日本思春期青年期精神医学会  
 事務局：日本思春期青年期精神医学会事務局  
 住 所：〒160-8582  
           東京都新宿区信濃町35  
           慶應義塾大学医学部 精神神経科学教  
           室内  
 TEL : 03-5363-3829 FAX : 03-5379-0187  
 e-mail : jsap.gim@gmail.com  
 URL : <http://jsaphp.com/>  
 代表者：＜会長＞小倉 清  
 事務局長：守屋直樹  
 会員数：333名  
**【平成28年度活動状況】**

第29回大会は、2016年7月9日（土）、10日（日）近藤直司氏（大正大学）を大会会長として、「思春期・青年期臨床を学ぶことと教えること」というテーマで、大正大学巣鴨キャンパ

スにて開催された。

シンポジウムは、「思春期・青年期治療を教えること」というテーマで行われた。小林真理子氏（山梨学院大学）は児童相談所における臨床教育経験から、森野百合子氏（東京都立小児総合医療センター）は、主に思春期の入院治療を通じての臨床研修から、山下洋氏（九州大病院）は子どもとこころの診療部を立ち上げる中での研修から、それぞれの立場で発表された。

一方のワークショップは、「思春期・青年期臨床を学ぶこと」と題して、大西真美氏（大正大学）、遠藤李哉氏（関東医療少年院）、公家里依氏（東京都立小児総合医療センター）、奥山玲子氏（札幌市子ども心身医療センター）が研修を受けてきた立場から発表され、討論がなされた。

教育講演は、岩崎徹也氏（東海大学名誉教授）『精神力動的精神科臨床の教育について』というテーマで講演された。

第30回大会は、2017年7月22日、23日、九州大学医学部にて黒木俊秀氏（九州大学）を大会会長として、「青年期におけるアタッチメントの課題」という大会テーマで開催される予定である。

#### (3) 日本乳幼児医学・心理学会

学会名：日本乳幼児医学・心理学会  
 事務局：日本乳幼児医学・心理学会事務局  
 住 所：〒603-8148  
           京都市北区小山西花池町1-8  
           (株)土倉事務所内  
 TEL : 075-451-4844 FAX : 075-441-0136  
 e-mail : aei04761@nifty.com  
 URL : <http://www.jampsi.org/>  
 代表者：＜理事長＞小林隆児  
 事務局長：野邑健二  
 会員数：一般244名 学生25名（平成29年3月31日時点）

## 【平成28年度活動状況】

＜第26回大会＞

開催日時：2016（平成28）年12月3日（土）

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス

会 長：濱田庸子（慶應義塾大学環境情報学部）

テーマ：精神分析と乳幼児精神保健 clinical infant と observed infant の交流

## 【プログラム内容】

会長講演「お母さんのこころの中の赤ちゃんと  
かかわること—精神分析の応用としての  
乳幼児精神保健—」濱田庸子（慶應  
義塾大学環境情報学部）

シンポジウム「精神分析と乳幼児精神保健」

・趣旨説明・司会：濱田庸子（慶應義塾大学環  
境情報学部）

・話題提供：「乳幼児観察と内省的臨床」渡辺  
久子（渡邊醫院 LIFE DEVELOPMENT CENTER）

「乳幼児の心理臨床から見た精神  
分析～生活臨床の場では出会う  
Stern 理論～」青木紀久代（お茶  
の水女子大学）

「精神科母子デイケアでの実践～  
ghost と共に～」朝枝清子（クリ  
ニックおぐら）

・指定討論：久保田まり（東洋英和女学院大学）

会誌「日本乳幼児医学・心理学研究」（年2  
回）の発行

第25巻1号（6月）：第25回大会特集

会長講演「不適切な養育による傷つきを持  
つ子どもの resilience について」久保田ま  
り

シンポジウム：愛着の傷つきと、子どもの  
resilience

「ディスカッション記録とふりかえり」久  
保田まり

「新たなレジリエンスの視点：シンポジウ  
ムをふりかえって」久保田まり

「精神療法からみた母子関係の修復過程—  
「甘え」体験とレジリエンス—」小林隆児

「愛着」概念の心理療法—愛着からの解放  
とレジリエンス—」田中康裕

「愛着の傷つきと、子どものレジリエンス  
—児童養護施設における心理士の視座から  
—」内海新祐

第25巻2号（12月）：特集「メンタライジ  
ングの発達と乳幼児精神保健」

「特別企画「メンタライジングの発達と乳  
幼児精神保健」に寄せて」小林隆児，大藪  
泰

「メンタライジングの発達と乳幼児精神保  
健」山下 洋

「メンタライジングの起源—自己感・他者  
感とそれを育むもの—」大藪 泰

「愛着におけるメンタライジングとレジリ  
エンスについて」久保田まり

「甘え」とメンタライジング」小林隆児

## （4）日本小児精神神経学会

学会名：日本小児精神神経学会

事務局：一般社団法人日本小児精神神経学会事  
務局

住 所：〒102-0075

東京都千代田区三番町7-1

朝日三番町プラザ408号

株式会社アークメディア内

TEL : 03-6272-651 FAX : 03-5210-0874

e-mail : jsppn@arcmedium.co.jp

URL : <http://www.jsppn.jp/>

代表者：＜理事長＞宮本信也

会員数：1391名（平成29年5月11日現在）

## 【平成28年度活動状況】

・日本小児精神神経学会は、昭和35年（1960  
年）に小児精神神経学研究会として発足し、  
平成4年（1992年）に学会となり、現在の日  
本小児精神神経学会となりました。設立から  
50年以上が経過し、小児の発達や心の問題に  
関する学会としては、わが国でも最も長い歴  
史を持つ学会の一つです。

現在、日本小児精神神経学会では、発達障害  
と愛着障害が大きなテーマとして議論される

ことが多くなっています。しかしながら、もちろん、本学会が対象とするのはこの2つに限定されるものではありません。小児精神神経学は、字義通りにとらえるならば、小児の精神と神経の問題を広く対象とするといえます。しかし、日本小児科学会の分科会としての本学会の立場は、「精神」の問題として主な対象とするのは発達と行動の問題であり、「神経」の問題として主な対象とするのは神経学的異常や神経疾患に伴う発達や行動の問題である、といえるでしょう。

平成28年度の活動内容について報告します。

- 学術集会の開催：例年どおり2回開催しました。6月には神奈川県で広瀬宏之会長、大会テーマ「発達障害と地域療育」で行い参加人数は736名、11月には山口県で林隆会長、大会テーマ「本当に必要な支援とは？」で行い参加人数は300名、と何れも盛況でした。学術集会時には、学会セミナーを開催しており、内容はそれぞれ、杉山登志郎先生「発達障害の薬物療法」と、稲垣真澄先生「発達障害児を持つ保護者の療育レジリエンスの向上にむけて」でした。
- 機関誌の発行：例年どおり学会誌「小児の精神と神経」を年4回発行しました。
- 学会認定医制度：日本小児精神神経学会の会員医師を対象に、認定医制度を行っています。審査は年2回行われ、現在の認定医数は207名です。

### (5) 日本小児神経学会

学会名：一般社団法人日本小児神経学会

事務局住所：〒162-0055

東京都新宿区余丁町8-16

ネオメディアピア4階

TEL：03-3351-4125 FAX：03-3351-4067

e-mail：jcsn@childneuro.jp

URL：https://www.childneuro.jp/

代表者：<理事長>高橋孝雄（慶應義塾大学医学部小児科教授）

会員数：3,816名（2017年7月31日現在）

### 【平成28年度活動状況】

平成28年6/3-5 第58回日本小児神経学会学術集会を京王プラザホテル新宿（東京）で開催、参加者総数は2,650名。

平成28年6/26 第1回小児神経学サテライトセミナーを佐賀大学（佐賀）で開催、受講者数は115名。

平成28年9/17-19 第46回小児神経学セミナーを湘南国際村センター（神奈川県葉山町）で開催、受講者数は76名。

平成28年10/1 第21回専門医試験を都市センターホテル（東京）で実施、合格者32名、合格率86.5%

平成28年11/27 第13回「医療的ケア」研修セミナーを長崎大学病院（長崎）で開催、受講者数は173名。

平成29年3/5 第11回プライマリケア医（小児科医、総合診療医）のための子どもの心の診療セミナーを北海道大学学術交流会館（札幌）で開催、受講者数は155名。

和文学会誌「脳と発達」第48巻第1～6号（診断と治療社）、英文学会誌 Brain & Development Volume 38 Issue 1～10（エルゼビア社）、「小児急性脳症診療ガイドライン2016」（診断と治療社）を発行した。

### (6) 日本小児心身医学会

学会名：一般社団法人日本小児心身医学会

事務局住所：〒606-8305

京都市左京区吉田河原町14

近畿地方発明センター

(有)知人社内

TEL：075-771-1373 FAX：075-771-1510

e-mail：shonisin@chijin.co.jp

URL：http://www.jisinsin.jp/index.htm

代表者：<理事長>村上佳津美

会員数：1215名

### 【平成28年度活動状況】

日本小児心身医学会は、昭和58年に日本小児心身医学研究会と称して第1回の学術集会を開催し、第7回に日本小児心身医学会と名称変更

し今日に至ります。昨今の子どもの心の問題の増加が指摘される中で会員数は1200名を超え、この領域への関心の高さを反映するとともに、活発な活動の源となっています。

平成28年度は、「小児心身医学～小児科と精神科と地域をつなぐ～」をテーマに、第34回学術集会在小柳憲司大会長（長崎県立こども医療福祉センター小児心療科）のもとで開催されました。当学会は心理士の参加も多く、公認心理師としての国家資格化に伴い、『治療において医師と心理士がどのように協力と役割分担をするかについて考える』という、医師－心理士協働セミナーの研修を行いました。また、平成28年4月には熊本地震があり、災害関連セッションを設け、災害時の子どものメンタルヘルス対策などを取り上げました。地方会活動も活発に行われており、北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・関西・中国四国・九州沖縄の7つの地域で地方会を開催しました。会員の方への情報提供として、学会誌は年4回に発行し、原著論文はもとより臨床に役立つ実践的な内容を掲載しています。また、ホームページには、診療に役立つ情報のお知らせや研修用ビデオプログラムのアップなども行い、会員の方が自己学習できるような支援を行っています。認定医制度についても、第7回の認定医試験が終了し、全体で117名の方が認定医として認定されています。

今後も、心と身体をつなぐ診療を実践できるような活動して参りますので、皆様のご支援ご参加をよろしく願いたします。

## （7）日本青年期精神療法学会

学会名：日本青年期精神療法学会

Japanese Association of Adolescent  
Psychotherapy

事務局住所：〒259-1193

神奈川県伊勢原市下糟屋143

東海大学医学部専門診療学系精神  
科学

TEL：なし FAX：0463-94-5532

e-mail：jjap-office@tsc.u-tokai.ac.jp

代表者：＜理事長＞松本英夫

事務局長：大西雄一

会員数：170名

### 【平成28年度活動状況】

本学会は、会員数においては小規模であるものの、30年以上の歴史を持つ組織である。1960年代半ばから本邦において青年期精神医学に対する関心が急速に高まってきたことを受けて、1980年に大阪で「青年期精神医学研究会」を開催したことから本学会は始まった。第2回は名古屋市で開催され「青年期精神医学交流会」と正式に名称が定められた。2年の空白をはさんで第3回が開催され1999年の第17回まで続いたが、交流会の世話人による議論の後に2000年の第18回から現在の「日本青年期精神療法学会」に移行することになった。機関誌の第1巻創刊号の刊行は翌年の2001年からである。学会組織になった後も交流会のよさを保っていくことが会員間の共通認識としてあり維持され続けている。すなわち、臨床現場の息吹が感じられる報告、初心者・中堅・ベテランを問わず自由に参加できる討論、参加者がそのまま自分の臨床現場に持ち帰ることができるもの、参加者を鼓舞し刺激するものが溢れる会、などである。そのため総会は症例検討が中心であり、各演題の発表時間は質疑を含めて最低でも30分を充てている。特に公開スーパービジョンにおいては、1時間以上かけて議論が行われており、学会発表において十分な症例検討がなされる機会が極端に減って久しい現在では希少な学会と言える。

第34回総会は平村英寿会長（長嶺南クリニック院長）のもと、2016年11月19日、20日に国立病院機構熊本医療センターにおいて「治療者のことば～いかに見立ていかに語るか～」をテーマに開催された。90名の参加者があり青年期の精神療法をめぐる活発な討論が行われた。第35回総会は山下達久会長（からすま五条・やましたクリニック）のもと2017年12月9日、10日の2日間、京都府立医科大学図書館ホール・看護学部学舎で開催される予定である。

（大西雄一・松本英夫）

**(8) 日本摂食障害学会**

学会名：日本摂食障害学会  
 事務局：株式会社メッド内 担当：金子 翠  
 住所：〒701-0114  
 岡山県倉敷市松島1075-3  
 TEL：086-463-5344 FAX：086-463-5345  
 e-mail：jimu@jsed.org  
 URL：http://www.jsed.org/index.html  
 代表者：＜理事長＞石川俊男  
 会員数：497名

**【平成28年度活動状況】**

今年度は、吉内一浩会長（東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学科長）のもとで、第20回日本摂食障害学会学術集会在平成28年9月3日～4日に東京大学伊藤国際学術研究センターおよび山上会館（東京都文京区）で開催された。東京での開催でもあり、吉内会長はじめ東京大学心療内科スタッフの献身的な尽力により盛大に行われ多くの参加者のもとで活発な議論が行われた。また、平成28年度厚労省科研費補助金「摂食障害の診療体制整備に対する研究」研究班（安藤哲也主任研究者、本学会理事）では、多くの本学会員が分担研究者等として参加しており、摂食障害の診療体制の整備に本格的にかかわるべく研究が3年間の活動を終わりその成果物が出版される予定になっている。また、この研究班は更に一年延長されることが決まっている。厚労省と地方自治体によって進められてきている摂食障害治療支援センター構想は3県でスタートしてそれぞれ3大学（宮城県：東北大学医学部心療内科、静岡県：浜松医大精神神経科、福岡県：九州大学医学部心療内科）がモデル事業的に行われ成果を上げてきている。他にも千葉県などで予算化が検討されており更に事業の拡大が期待されている。これらの施設は本学会でも有力な学会員によって運営されており、学会としても積極的に支援していく予定である。

**(9) 日本発達障害学会**

学会名：日本発達障害学会  
 事務局住所：〒114-0015  
 東京都北区中里1-9-10  
 パレドール六義園北402号室  
 TEL/FAX：03-5814-8022  
 e-mail：office@jasdd.org  
 URL：http://www.jasdd.org  
 理事長：菅野 敦  
 事務局長：霜田浩信  
 会員数：2,100名（平成29年現在）

**【平成28年度活動状況】**

日本発達障害学会は、発達障害者の教育・医療・福祉・労働などの多領域・複合領域による学術研究団体であり、発達障害に関する各分野の科学的研究を推進・援助するとともに、各国の研究活動と連携を保ち、発達障害研究の発展と問題の解決をはかることを目的としている。

第52回研究大会（http://jasdd52.jp/）は、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園理事長遠藤浩氏を大会実行委員長として、8月11日（金・祝）・12日（土）群馬県社会福祉総合センターにて開催する。研究大会のメインテーマを「切れ目のない発達障害児者支援を目指して」として、特別講演に内山登紀夫氏による「発達障害児者支援と犯罪」、遠藤浩氏による「発達障害児者の福祉の歴史から今後の福祉施策の方向を展望する」のほかシンポジウム、研究発表が予定されている。

2016-17年にかけての機関誌特集テーマは、「障害者虐待防止法施行後の3年間を振り返る」「就学支援の現状と今後の課題」「障害児の就学支援」「心理教育的アセスメント」等である。

本会は国際知的・発達障害学会（IASSIDD）の日本支部でもある。2017年11月13日～16日にタイ・バンコクにて第4回アジア・太平洋地区会議知的・発達障害学会が開催される。

わが国における発達障害者への支援ニーズの今日的な高まりを受けて、本学会では医療従事者・教育者・支援者などの専門性向上やその理

解のために、「臨床心理士」「学校心理士」「児童青年精神医学会認定医」「小児神経学会専門医」の資格研修（ポイント）や認定に協力している。

### (10) 日本 LD 学会

学会名：一般社団法人日本 LD 学会

事務局住所：〒108-0074

東京都港区高輪3-24-18

高輪エンパイヤビル8F

TEL : 03-6721-6840 FAX : 03-6721-6841

e-mail : office@jald.or.jp

URL : http://www.jald.or.jp

代表者：＜理事長＞柘植雅義

事務局長：緒方明子

会員数：9,495名

#### 【平成28年度活動状況】

日本 LD 学会は、教育、心理、医療等に携わる専門家や教師、そして保護者によって、1992年に設立された学術研究団体です。2009年4月1日に法人化し、「一般社団法人日本 LD 学会」となりました。

会員数は2017年4月1日時点で9,495名、名誉会員18名、機関会員・賛助会員合わせて47機関となっています。

2016年11月には「発達障害の子どもと家族—学習・行動・心の包括的理解と支援—」をテーマとして、第25回大会（東京）をパシフィコ横浜にて開催致しました。会員・非会員合わせて、約4,000名を超える参加者がありました。

また、同年12月に開催された2016公開シンポジウム（大阪）では「発達障害のある大学生の就労支援の現状とこれから—発達障害学生の最新就職事情—」をテーマとし、基調講演・シンポジウムを行いました。会員・非会員合わせて約350名の参加者がありました。

第26回大会（栃木）は、2017年10月7日（土）～9日（月・祝）の3日間、栃木県総合文化センターを会場に開催いたします。テーマを「発達障害の人の社会参加—大人になって幸せになるために—」とし、準備をすすめております。

詳細については、本学会 HP (<http://www.jald.or.jp>) をご覧ください。

#### 【一般社団法人日本 LD 学会】

住 所：〒108-0074

東京都港区高輪3-24-18

高輪エンパイヤビル8F

TEL : 03-6721-6840（平日10：00～17：00）

e-mail : office@jald.or.jp

URL : http://www.jald.or.jp

### (11) 日本自閉症スペクトラム学会

### (12) 日本精神病理学会

学会名：日本精神病理学会

事務局住所：〒565-0871

大阪府吹田市山田丘2番2号D3

大阪大学大学院医学系研究科精神

医学教室内

TEL : 06-6879-3056 FAX : 06-6877-7430

e-mail : info@psychopathology.jp

URL : http://www.psychopathology.jp/

代表者：＜理事長＞鈴木國文

事務局長：小笠原將之

会員数：639名

#### 【平成28年度活動状況】

本学会は、昭和53年に誕生した「精神病理懇話会」が発展的に学会組織化されて昭和63年に発足したものである。呼称は平成16年に一旦「日本精神病理・精神療学会」に変更されたが、平成25年に現在の名称に復している。

本学会の主な活動内容は、機関誌の刊行と年次学術集会（大会）の開催である。

本学会の機関誌『臨床精神病理』は、平成28年度中には第37巻第1号から第3号まで（年3回）を予定通り刊行した。

本学会第39回大会は、平成28年10月7・8日の両日に互り、生田孝大会長（聖隷浜松病院）の許、アクトシティ浜松コンgresセンター（静岡県浜松市）にて開催された。当該大会に於いては、会長講演として生田孝氏による「精

神医学—西洋との出会いと生みの苦しみ」, 特別講演として Thomas Fuchs 氏 (Heidelberg 大学) による「身体への具象化 (もの化) Verkörperung と精神病理学—生態学的観点から脳, 有機体, 精神疾患を捉える—」, 教育講演として「看取りの実践から見えてくる生の哲学—訪問看護師の語りを例に」(村上靖彦氏)・「人工生命化する社会の中で, われわれはいかに生きるべきか」(池上高志氏)・「自閉症スペクトラム障害への心理療法の試みと時代性」(河合俊雄氏) の 3 席が持たれた他, シンポジウム 3 席 (「臨床記述の復権」「スピリチュアリティと精神病理」「自閉スペクトラム症・時間・私」), 一般演題 41 題と大変充実した内容であり, いずれも活潑な議論が交わされ, 成功裡に閉幕した。

第40回大会は, 岡崎伸郎大会長 (国立病尾機構仙台医療センター) の許, 平成29年10月20・21日に仙台国際センター (仙台市) にて開催される予定である。

### (13) 日本精神分析学会

### (14) 国際学会 IACAPAP, ASCAPAP, ESCAP, AACAP, WAIMH など

### (15) 関東子ども精神保健学会

### (16) 東京児童青年臨床精神医学会

学会名: 東京児童青年臨床精神医学会  
事務局: 東京都立小児総合医療センター  
住 所: 〒183-8561  
東京都府中市武蔵台2-8-29  
TEL : 042-300-5111 FAX : 042-312-8147  
代表世話人: 田中 哲 (東京都立小児総合医療センター)  
世話人: —50音順—  
新井慎一 (尾山台すくすくクリニック), 宇

佐美政英 (国立国際医療センター国府台病院), 大下隆司 (代々木の森診療所), 太田昌孝 (心の発達研究所), 岡田 謙 (くじらホスピタル), 小野和哉 (東京慈恵会医科大学), 金生由紀子 (東京大学), 栗田 広 (全国療育相談センター/東京大学名誉教授), 小枝達也 (国立成育医療研究センター), 齊藤万比古 (国立国際医療センター国府台病院), 齊藤卓弥 (北海道大学), 鈴木俊介 (東京都立大塚病院), 立花良之 (国立成育医療研究センター), 中川栄二 (国立精神・神経医療研究センター病院), 中村道子 (上代継診療所), 蓮舎寛子 (東邦大学), 藤井靖史 (帝京大学), 古荘純一 (昭和大学), 星加明德 (北新宿ガーデンクリニック), 皆川邦直 (法政大学), 宮尾益知 (どんぐり発達クリニック), 宮島 祐 (東京家政大学), 米山 明 (心身障害児総合医療療育センター), 渡辺久子 (慶應義塾大学)

事務局長: 森野百合子 (東京都立小児総合医療センター)

会計監査: 市川宏伸 (東京都立小児総合医療センター)

会員数: 平成28年度学術講演会参加者70名

【平成28年度活動状況】

第15回東京児童青年臨床精神医学会  
平成28年4月16日 (土)

当番世話人 開会の辞 13:00~13:05

#### ●一般演題 13:05~13:45 (40分)

座長: 青山学院大学 古荘純一

1. 「緊張病様症状を呈した自閉症スペクトラム障害の一症例」  
東邦大学医学部 永本晃子
2. 「医師による学校訪問, 校内研修会への参画, 学習支援の実践から」  
帝京大学医学部 藤井靖史

#### ●会計報告 13:45~13:50 (5分)

会計監査人 市川宏伸

—休憩 13:50～14:00 (10分) —

●基調講演 14:00～16:00 (120分)

座長：東京大学医学部附属病院 金生由紀子

1. 「医学と教育の連携について～クリニックから教室へ～」

国立研究開発法人国立成育医療研究センター  
こころの診療部部長 小枝達也

2. 「特別支援教育の校内システムづくりと医教連携の可能性～「気づき」「支え」「つなぐ」ために～」

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課  
特別支援教育調査官 田中裕一

—休憩 16:00～16:10 (10分) —

●パネルディスカッション 16:10～7:35 (85分)

座長：帝京大学医学部 藤井靖史

西多摩療育支援センター 中村道子

1. 「特別支援教育コーディネーターの視点から見た課題と提案」

目黒区立中根小学校教諭 特別支援教育コーディネーター 上野千絵子

2. 「医療関係者が期待する教育の在り方に関する調査報告を中心に、医療と教育との連携を考える」

公益社団法人発達協会王子クリニック院長  
石崎朝世

代表世話人 閉会の辞

### (17) 近畿児童青年精神保健懇話会

研究会名：近畿児童青年精神保健懇話会

事務局：関西医科大学精神神経科

住 所：〒570-8506

大阪府守口市文園町10-15

TEL：06-6993-9470 FAX：06-6995-2669

e-mail：knkjidou@takii.kmu.ac.jp

代表者：木下利彦

会 長：長尾圭造

会員数：600名

【平成28年度活動報告】

第54回：平成28年8月27日（土）

会 場：関西医科大学総合医療センター南館  
2階臨床講堂

メインテーマ：「子どもの精神保健と貧困」

第1部

司会：稲垣貴彦先生（滋賀県立精神医療センター）

飯田順三先生（奈良県立医科大学医学部  
看護学科人間発達学）

【講演1】

「子どもの精神保健リスクとしての貧困とデブリバージョン（剥奪）」

講師：小野善郎先生（和歌山県精神保健福祉センター）

【講演2】

「子どもの貧困～からだ・こころ・性の視点から～」

講師：金子由美子先生（さいたまユースサポートネット）

第2部

司会：稲垣貴彦先生（滋賀県立精神医療センター）

飯田順三先生（奈良県立医科大学医学部  
看護学科人間発達学）

【講演3】

「子どもの貧困の現状と子どもの育ちに与える影響について～スクールソーシャルワーカーの視点から～」

講師：水流添綾先生（一般社団法人こもれば代表理事）

第3部

【分科会】

～グループ討論会～

ファシリテーター：田中 究先生，水田一郎先生，岡田 章先生

【総合討論】

司会：稲垣貴彦先生（滋賀県立精神医療センター）

飯田順三先生（奈良県立医科大学医学部

看護学科人間発達学)

参加者：約100名

### (18) 北海道児童青年精神保健学会

学会名：北海道児童青年精神保健学会

事務局：(株) コンベンションワークス内

住 所：〒003-0809

札幌市白石区菊水 9 条 3 丁目1-17

TEL : 011-827-7745 FAX : 011-827-7769

e-mail : h-jidoseinen@conv-s.com

URL : <http://h-jidoseinen.conv-s.com/>

代表者：<会長>氏家 武

事務局長：柳生一自

会員数：170名

【平成28年度活動状況】

第32回研修会（2016年10月8日）於：北海道大学医学部臨床大講堂

特別講演 講師：扇子幸一先生（北海道教育大学札幌校）「非行の減少に見る子どもの育ち」

シンポジウム「非行とその周辺」

参加者：47名

第41回例会（2017年2月5日）

午前の部：特別講演 講師：荒木章子（北海道子ども心療内科氏家医院）「AD/HDの脳科学」

午後の部：一般演題9題

参加者：92名

### (19) 国立精神・神経センター 精神保健研究所 (発達障害支援のための医学課程研修)

研究会名：発達障害支援のための医学課程研修  
(発達障害支援医学研修)

事務局：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部

住 所：〒187-8553

東京都小平市小川東町4-1-1

TEL : 042-346-2157 FAX : 042-346-2158

e-mail : dhp09@ncnp.go.jp

課程主任：稲垣真澄（日本児童青年精神医学会

会員）

副主任：加賀佳美, 北 洋輔

会員数：60名

【28年度活動状況】

本研修課程は、発達障害の積極的な支援につながる知識や技能の獲得をめざして、発達障害に関心のある医師とくに指導について責任的立場にある精神科医師、小児科医師を対象とするもので平成17年から行っている。なお28年度から全国でスタートした、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修の基盤研修に位置づけられ、本研修の受講者が各地域においてかかりつけ医等に対する講習を行う、という伝達講習の性格を持つこととなった。

研修内容は、発達障害者支援法の理解、神経発達症群の中で自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症の医学的診断と治療にかかわる講義を行い、講義終了毎に理解度の確認テストをしている。

平成28年度は平成28年7月（第21回）と29年1月（第22回）の2回に分けて開催した。テーマは、支援施策の紹介、治療支援の考え方、地域における支援の取り組み（大阪府）、顕在化しにくい発達障害である学習障害、吃音、チック症、発達性協調運動障害の診断と支援、発達障害の薬物治療、ADHD児の診方～問題行動解決のための面接技法、発達障害児の感覚評価と支援、虐待問題を抱える親子への治療、Vineland IIによる適応機能評価と支援、発達障害者の就労状況の現状と展望、ネット依存・スマホ依存の考え方、母親の養育レジリンス向上の支援策の合計18講義が精神科や小児科の専門家ならびに心理系専門職や教育学者などから構成される講師群によって紹介されて、受講者からの熱心な質問がみられた。

### (20) 日本司法精神医学会

学会名：日本司法精神医学会

Japanese Society of Forensic Mental Health

事務局<入退会・年会費・住所変更等担当>：

〒169-0072

東京都新宿区大久保2-4-12

新宿ラムダックスビル9階

株式会社春恒社 学会事務部内

TEL : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176

e-mail : jsfmh@shunkosha.com

学会本部<上記以外の業務担当> :

〒260-8670

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門内

TEL/FAX : 043-226-2538

e-mail : jsfmh2005@yahoo.co.jp

URL : <http://www.jsfmh.org/index.html>

代表者 : <理事長>五十嵐禎人 (平成29年6月3日現在)

会員数 : 772名

機関誌 : 司法精神医学 (年1回発行)

#### 【平成28年度活動状況】

第12回大会は2016年6月18~19日に千葉大学社会精神保健教育研究センター五十嵐禎人理事を会長として、「司法精神保健の多様性と展開」を基本テーマに、千葉大学亥鼻キャンパスで開催された。講演は、会長講演「判断能力の精神医学的評価」、特別講演「司法精神保健に関わる精神疾患の診断と治療」の2つであった。シンポジウムは「法的能力の精神医学的評価：一般精神科医療と司法精神医学」、「医療観察法による医療から地域精神保健への移行」、「矯正施設と地域における司法精神保健」の3つが開催された。今回の大会では、法制度の改正・創設により司法精神医学から幅広い領域に対応する司法精神保健学へと変革することを要請されているわが国の現状や一般精神科医療でも必要とされる司法精神医学的な観点などを中心に議論が行われた。一般演題は59題で、精神鑑定や医療観察法における処遇などを中心に幅広い分野の報告がなされ、参加者は300名であった。また、「鈴木裕樹研究基金」助成事業の第9回受賞者である今井淳司会員（東京都立松沢病院）から研究成果の報告がなされ、第10回受賞

者である西中宏吏会員（千葉大学社会精神保健教育研究センター）が総会で表彰された。

研修・教育企画委員会主催で開催される第8回「刑事精神鑑定ワークショップ」は、第12回大会終了後の6月19日に事例検討が、2017年1月21日、22日に講義が開催された。また、学会認定精神鑑定医制度の第3回試験が実施され、6名が合格した。

第13回大会は、2017年6月2~3日に大阪府立精神医療センター籠本孝雄評議員を会長として、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で、第14回大会は、2018年6月1~2日に山口県立こころの医療センター兼行浩史評議員を会長として、山口県総合保健会館で開催される予定である。

### (21) 千葉児童思春期精神医学研究会

研究会名 : 千葉児童思春期精神医学研究会

事務局 : 国立国際医療研究センター国府台病院

住所 : 〒272-8516

千葉県市川市国府台1-7-1

TEL : 047-3720-3501 FAX : 047-372-1858

e-mail : djidou@hospk.ncgm.go.jp

代表者 : 宇佐美政英

世話人 : 宇佐美政英, 青木 勉, 磯野友厚, 吉田崇一郎, 安藤咲穂, 敦賀壮太, 青木聡美, 伊藤依理子, 篠田直之, 馬場翔吾, 中里道子, 佐々木 剛

事務局長 : 岩垂喜貴

会員数 : 130名

#### 【平成28年度活動状況】

第24回 千葉児童思春期精神医学研究会は、千葉市立青葉病院の主幹で、下記の日時、会場、プログラムにて開催された。参加人数は130名であり、活発な議論がなされた。

日時 : 2017年1月21日 (土) 13:00~17:30

会場 : ハーモニープラザ 男女共同参画センター

プログラム :

【一般演題①】(発表12分・質疑応答3分)

司会 : 安藤咲穂 (千葉県こども病院)

演題1 「一時保護児童の家庭復帰に向けた支援～ワークショップとピクチャーズ実施の試み～」友森貴裕（柏児童相談所）

演題2 「医療機関におけるASD児への行動介入の経験」高橋あかね（千葉市桜木園）

演題3 「家族療法一部導入し症状改善した性被害女子の一例」小池友紀（あしたの風クリニック）

演題4 「チームで抱える～素行障害の事例を通して～」長谷川信也（国保旭中央病院）

【一般演題②】（発表12分・質疑応答3分）

司会：磯野友厚（国保旭中央病院）

演題5 「注意欠如多動症児の入院による患児と家族の評価—千葉大学医学部所属病院における入院症例から—」大迫鑑顕（千葉大学医学部付属病院精神神経科・こどものこころ診療部）

演題6 「児童思春期の神経性やせ症に対する集団認知機能改善療法の取り組み：パイロット研究」公家里依（千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学）

演題7 「精神病症状をとまなう重症うつ病エピソードを抱える中3女子と面接—退院に向けて病棟心理士が出来ること—」馬場翔吾（青葉病院）

演題8 「統合失調症の発症を疑う軽度難聴の女子の症例」小淵レミエ（国立国際医療研究センター国府台病院）

【症例検討】

司会：中里道子（千葉大学大学院医学研究院精神医学教室特任教授）

「摂食障害女子の症例—育ちを支える関わり—」井原祐子（千葉県こども病院）

【特別講演】

司会：篠田直之（千葉市立青葉病院）

「思春期神経性やせ症の精神療法どう理解しどうかかわるか」花澤寿先生（千葉大学教育学部養護教育講座教授）

## (22) 東京子どものメンタルヘルス研究会

研究会名：東京子どものメンタルヘルス研究会

事務局：心身障害児総合医療療育センター小児科内

住所：〒173-0037

板橋区小茂根1-1-10

TEL：03-3974-2146 FAX：03-3554-6176

e-mail：tcmh@ryouiku.or.jp

yoneyama@ryouiku.or.jp

URL：（作成中）

代表者：＜代表＞市川宏伸

世話人：内山登紀夫、齊藤万比古、金生由紀子、小野和哉、中村道子、大下隆司、川崎葉子、石崎朝世、米山明、成重竜一郎、小枝達也

事務局長：米山明

会員数：92名

【平成28年度活動状況】

平成28年度は平成28年7月25日に第23回研究会を東京ガーデンパレスにて、平成29年2月22日に第24回研究会を御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにおいて開催した。

第23回研究会は「障害児支援（療育）最近の福祉制度の動向」（演者：心身障害児総合医療療育センター外来療育部長 米山明先生）、「ADHDと気分障害」（演者：北海道大学大学院児童思春期精神医学講座特任教授 齊藤卓弥先生）の2演題の講演を行った。

第24回研究会は「ASDにおけるアリピプラゾールの使用経験からの考察」（演者：心身障害児総合医療療育センター小児精神科 木村育美先生）、「人はなぜ依存症になるのか」（演者：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究薬物依存研究部部長 松本俊彦先生）の2演題の講演を行った。

尚、研究会事務局を心身障害児総合医療療育センター小児科内に移転した。

## (23) 愛知児童青年精神医学会

学会名：愛知児童青年精神医学会

事務局：名古屋大学心の発達支援研究実践センター

住所：〒464-8601

名古屋市千種区不老町

TEL : 052-789-2611 FAX : 052-747-6522

e-mail : ascap-office@umin.ac.jp

URL : http://ascap.umin.jp/ASCAP/index.html

代表者：<理事長>本城秀次

事務局長：野呂健二

会員数：89名

#### 【平成28年度活動状況】

第8回学術総会を、吉川徹会長（愛知県心身障害者コロニー中央病院）のもと、平成29年3月18日（日）に名古屋大学 ES 総合館 ES ホールにて実施した。

・一般口演5題

・シンポジウム『「強度行動障害」と医療』

基調会長講演

「強度行動障害～医療に何が出来るのか～」

愛知県心身障害者コロニー中央病院 吉川徹

話題提供

「当院児童精神科病棟における行動制限最小化の取り組み」

愛知県心身障害者コロニー中央病院 鈴木善統

「地域連携顛末記：強度行動障害への対応～地域の精神科病院で何が出来るか～」

医療法人精成会刈谷病院 平野千晶

「行動障害のある人たちを支える福祉の仕組みと現状」

特定非営利活動法人ゆめじろう 出口 晋

#### (24) 九州児童青年精神医学懇話会

学会名：九州児童青年精神医学会

事務局：九州大学病院子どものこころの診療部

住 所：〒812-8582

福岡市東区馬出3-1-1

TEL : 092-642-5624 FAX : 092-642-5644

e-mail : h-yama03@npsych.med.kyushu-u.ac.jp

（備考：事務局は九州大学病院と肥前精神医療センターで1年毎に持ち回りで担当）

会 長：小林隆児（西南学院大学）

事務局長：山下 洋（九州大学病院子どものこ

ころの診療部）

会員数：76名

#### 【平成28年度活動状況】

①定例総会（症例検討含む）

日 時：平成28年4月2日（土）15時～18時

会 場：福岡市中央区あいあいセンター 中会議室

症 例：「保護者の時間的ニーズにあわせた“短縮版”親訓練の実施報告」

発表者：杉本頼己（肥前精神医療センター）

総 会：平成27年度の活動報告および会計監査、平成28年度の事務局、活動計画

②定例会

日 時：平成28年9月3日（土）15時～18時

会 場：福岡市東区九州大学病院 ウエストウイングカンファレンスルーム

症 例：「自閉スペクトラム症の反復行動から不適応状況に至った児童思春期の二症例に関する検討：強迫症との関連および治療についての検討」

発表者：山根謙一（九州大学病院）

③定例会

日 時：平成28年12月3日（土）17時～18時

会 場：福岡市城南区 なかにわメンタルクリニック

症 例：「複雑な家庭環境の中で育った中一男児について 自閉症か愛着障害か？」

発表者：飯田潤子（なかにわメンタルクリニック）

#### (25) 児童精神薬物治療研究会

研究会名：児童精神薬物治療研究会

事務局：東京家政大学

事務局担当：宮島 祐

住 所：〒350-1398

埼玉県狭山市稲荷山2-15-1

TEL&FAX : 042-955-6944

e-mail : miyajima-t@tokyo-kasei.ac.jp

代表世話人：宮島 祐（東京家政大学）

世話人：市川宏伸、石崎朝世、宇佐美政英、内

山登紀夫, 奥山真紀子, 小野和哉, 金生由紀子, 近藤直司, 齊藤万比古, 齊藤卓弥, 中川栄二, 成重竜一郎, 星加明德, 松本英夫, 宮本信也 (50音順・敬称略)

会員数: 155名

年会費: 1,000円

#### 【平成28年度活動状況】

平成17年に発足以来, 世話人会は年2回開催し, 研究会の運営などについて審議している。また研究会では児童精神領域における適切な薬物療法についての研究と実践, および啓発活動を行っている。平成28年度は12月11日に第11回研究会をベルサール飯田橋駅前で開催した。

#### 第11回児童精神薬物治療研究会

当番幹事: 宮本信也先生 (筑波大学副学長)

テーマ: 心的外傷およびストレス因関連障害群の治療における薬物療法の役割

シンポジウムは, 演題1「PTSDの治療と薬物療法」飛鳥井望先生 (医療法人社団青山会青木病院副院長), 演題2「反応性愛着障害と脱抑制型対人交流について」青木豊先生 (目白大学人間学部子ども学科・同大学院生涯福祉研究科教授), 演題3「子どものトラウマ関連障害と薬物療法」亀岡智美先生 (兵庫県こころのケアセンター副センター長) の3題が講演され, その後活発な質疑応答が行われた。

### (26) 日本 ADHD 学会

学会名: 日本 ADHD 学会

事務局: 株式会社ケイ・コンベンション内

住所: 〒160-0022

東京都新宿区新宿1-27-2山本ビル2階

TEL : 03-5367-2382 FAX : 03-5367-2187

e-mail : secretariat@js-adhd.org

URL : <http://www.js-adhd.org/index.html>

代表者: <会長> 齊藤万比古

事務局長: 小野和哉

会員数: 214名 (2016年12月31日現在)

#### 【平成28年度活動状況】

(総会・市民公開講座の開催)

- 日本 ADHD 学会 第7回総会開催報告

開催日: 2016年2月20日(土), 21日(日)

会場: 筑波大学東京キャンパス文京校舎 (東京都文京区)

第7回会長: 宮本信也先生 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

テーマ: ADHDにおける学習問題を考える

参加人数: 194名

- 日本 ADHD 学会主催 市民公開講座

開催日: 平成28年(2016年)21日(日)

会場: 筑波大学東京キャンパス134講義室 (東京都文京区)

講演内容: 「ADHDにおける学習問題を考える」

「読み書き困難に対する早期発見と早期支援モデル」

講師: 小枝達也 (国立成育医療研究センターこころの診療部)

「算数障害の捉え方」

講師: 熊谷恵子 (筑波大学人間系)

参加者数: 97名

会員宛の配布物

- DIVA2.0成人用 ADHD 診断面接 (DIVA) DVD ビデオ

- ADHD-RS 評価スケールの日本版標準化に向けて

(精神医学, 第58巻第4号, 別刷, 医学書院)

### (27) 日本線維筋痛症学会

学会名: 一般社団法人日本線維筋痛症学会

事務局住所: 〒100-0013

東京都千代田区霞が関1-4-1

日土地ビル1階

霞が関リウマチ治療研究所内

TEL : 03-3580-5765 FAX : 03-3580-8533

e-mail : [jcfi.network@jcfi.jp](mailto:jcfi.network@jcfi.jp)

URL : <http://jcfi.jp/index.html>

代表者：＜理事長＞西岡久寿樹  
 事務局長：中村郁朗  
 会員数：約300名

#### 【平成28年度活動状況】

第8回学術集會を2016年9月17・18日に東京で開催しました。Fibromyalgia Research Symposium 2016 in Nagasaki (Satellite symposium of 16th World congress of Pain) を2016年10月1・2日に長崎で開催しました。

ホームページ上で「線維筋痛症診療ネットワーク」の検索システムを運営しています。また、会員専用サイトではニュースレターの発行とともにサイエンスピックアップとして線維筋痛症関連の論文を紹介しています。

### (28) 神奈川児童青年精神医学研究会

研究会名：神奈川児童青年精神医学研究会  
 事務局：神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科  
 住 所：〒232-8555  
 神奈川県横浜市南区六ッ川2-138-4  
 TEL : 045-711-2351 FAX : 045-721-3324  
 e-mail : kokoro-tm@kcmc.jp  
 代表者：＜会長＞新井 卓（神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科）  
 世話人：大滝紀宏，清水康夫，清家洋二，高木一江，渥美義賢，生地 新，広瀬宏之，大屋彰利，高橋雄一，井上勝夫，飯田美紀，三上克央，猪子香代，原 郁子，中山 浩，西本佳世子  
 事務局長：南 達哉（神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科）  
 会員数：154名

#### 【平成28年度活動状況】

第66回研究会は平成28年7月23日に横浜市神奈川区のTKP横浜ビジネスセンターで開催された。症例検討では神奈川県立精神医療センターの横山琢也医師が「基本的不信感を抱いていたと思われる患者の治療経過」という演題で症例提示した。ショートレクチャーでは東横恵愛病院の西本佳世子医師が「衝動的な子どもをみ

るということ～入院治療の中でのかわりを中心に～」という演題で児童・思春期病棟における入院治療について講演を行った。

第67回研究会は平成29年3月25日に66回と同会場で開催された。症例検討では東横恵愛病院の松岡祐加医師が「生後まもなくから“かけ違い”が遷延した6歳女児の入院治療」という演題で症例提示した。ショートレクチャーでは横浜市立大学附属病院児童精神科の青山久美医師が「児童精神科における依存症治療の視点」という演題で講演を行った。2回の研究会共に活発な議論が行われた。

### (29) 東北児童青年精神医学会

学会名：東北児童青年精神学会  
 事務局：山形県立こころの医療センター  
 住 所：〒997-0019  
 山形県鶴岡市茅原草草見鶴51-1  
 TEL : 0235-64-8100 FAX : 0235-64-8822  
 e-mail : tohokujido@prefectural-hp.tsuruoka.yamagata.jp  
 代表者：＜会長＞水俣健一  
 事務局長：東海林岳樹  
 会員数：約140名

#### 【平成28年度活動状況】

東北6県が持ちまわりで開催するこの学会は、昭和48年に出発した『東北児童青年精神医学懇話会』から『学会』に移行した平成11年に秋田県で第1回目をスタートし、平成28年の秋田開催で18年が経過し、第18回大会となった。この間に、学会の源流とも言うべき『懇話会』を産み出し、育ててこられた白橋宏一郎先生と山家均先生のお二人が他界され、大きな大黒柱を失いながらも、その東北における「児童青年期精神科臨床」に向けた熱い志を受け継ぎながら、現在にいたっている。

平成28年6月26日に秋田市において、第18回東北児童青年精神医学会を開催した。午前中に「一般演題」10題と午後から「特別講演」として、北里大学大学院医療系研究科医療人間科学群発達精神医学教授生地新先生による「子ども

のサイコセラピー」が発表され、約100名の参加者を集めて熱心な交流の場が持たれた。

平成29年度は、山形県が開催地となることが決定した。

### (30) 京都児童精神医学研究会

平成29年4月 解散

更新ポイントは平成34年まで有効です。

研究会名：京都児童精神医学研究会

事務局：〒606-8507

京都府京都市左京区聖護院川原町53

京都大学医学研究科人間健康科

学系臨床認知神経科学十一研究室内

代表者：十一元三

世話人：十一元三、飯田順三、岡田俊、白瀧貞昭、横田伸吾

#### 【平成28年度活動状況】

平成28年4月16日（16：00～19：00）、メルパルク京都において第13回京都児童精神医学研究会を開催した。

#### 一般講演

「自閉スペクトラム症におけるトラウマ体験による二次障害へのEMDR治療」

特定非営利活動法人神経発達症研究推進機構  
理事 天野玉記先生

#### 教育講演

「小児神経疾患に併存する発達症の問題」

社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院  
小児科部長 荒木 敦先生

#### 特別講演

「児童青年期の診療におけるトラウマの問題と自閉スペクトラム症」

兵庫県立光風病院院長・精神科救急医療センター長 田中 究先生にご講演をいただいた。

今回は、平成29年4月15日にメルパルク京都において開催することに決定した。

### (31) 子ども虐待防止学会

学会名：一般社団法人日本子ども虐待防止学会  
(JaSPCAN)

住所：〒106-8580

東京都港区南麻布5-6-8

TEL/FAX：03-3440-2581

e-mail：info@jaspcan.org

URL：http://jaspcan.org/

代表者：理事長 奥山真紀子

事務局長：山本恒雄

会員数：2,960名（平成29年6月末）

#### 【平成28年度活動状況】

#### 1. 学術集会

名称：子ども虐待防止学会第22回学術集会  
おさか大会

期間：平成28年11月25～26日

場所：大阪国際会議場

参加者：2,680名

メインテーマ：「新たな支援の創造」

主な内容：

大会特別講演「なぜ人間の赤ちゃんは泣くのか？」  
演者 京都大学総長 山極壽一  
国際プログラム「ラター氏から学ぶ逆境状況の子どもの理解と支援」  
ほかに大会全体シンポジウム、企画プログラム6題など。

#### 2. 学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」の発行

平成28年5月：18巻1号 特集「虐待による乳幼児頭部外傷（AHT）」

平成28年8月：18巻2号 特集「子ども虐待防止学会第21回学術集会にいがた大会」

平成28年12月：18巻3号 特集「人生史と虐待」

#### 3. 会員向けのニューズレター発行

平成28年6月：40号 特集「平成27年11月開催のにいがた大会」報告

平成28年11月：41号 特集「特別養子縁組シンポジウム」

なお、従来の紙媒体から、41号から電子媒体による発行に変更した。

#### 4. その他の活動

- 1) 平成28年1月12日、法務省に「性犯罪に対する罰則について」の意見書を提出した
- 2) 平成28年6月3日、各報道機関に「児童福祉法等改正に関する理事長声明」を伝達した。
- 3) 平成28年7月3日に「特別養子縁組シンポジウム」を日本女子大学目白キャンパスにて開催し、研究者をはじめ自治体職員、政府職員などの参加があった。
- 4) 「施設や里親家庭で暮らしている若者のための入学支援金」事業として、引き続き2名に、返済不要の交付金を給付した。

なお、平成29年12月2～3日に幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）にて、第23回学術集会ちば大会を「すべては子どもの笑顔のために守り・育み・社会へ」のメインテーマのもと開催を予定している。